



タケエイグループCSR報告書 **2019**

Only One Earth

経営理念

資源循環型社会への貢献を目指す

自然との調和、地域住民との共生を基調として、環境負荷の低減を前提とした資源循環型社会へ貢献するために、多様なニーズに対応したリサイクル技術の確立と施設の充実に推進する。

編集指針

本報告書では、タケエイグループのCSR(企業の社会的責任)に関する取り組みを報告しています。前半の「トップ対談」および「タケエイグループの価値向上プロセス」において、社会課題の解決に向けた当社グループの立ち位置や考え方について示しています。特集を含む後半は具体的な取り組み事例として、(株)タケエイグリーンリサイクルが行う木のリサイクルのご紹介や、当社グループの活動実績を3つの観点(環境・社会・ガバナンス)から報告するページを設けています。

免責事項

本報告書に含まれる将来に関する記述については、記述した時点で入手できた情報や計画に基づいているため、諸条件の変化によって異なる結果になることがあります。読者の皆さまには、あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

報告対象期間

2019年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

※一部上記期間以外の内容も含んでいます。

報告対象組織

原則としてタケエイグループ((株)タケエイおよび子会社26社)を対象としています。対象範囲の異なる報告については、個々に対象範囲を記載しています。

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン」

発行日

2019年9月(次回予定2020年9月)

本報告書に関するお問合せ先

株式会社 タケエイ CSR推進部 ISO推進グループ
〒105-0011 東京都港区芝公園2丁目4番1号 A-10階
TEL:03-6361-6836 FAX:03-6361-6839

CONTENTS

経営理念・編集指針	01
会社概要	03
事業概要	04
トップメッセージ	05

タケエイグループの価値向上プロセス	11
-------------------	----

特集 株式会社タケエイグリーンリサイクル 木のリサイクル	13
--	----

タケエイグループのCSRマネジメント	17
--------------------	----

■ 環境のために

環境とのかかわり	19
事業環境に伴う環境負荷	20
タケエイグループの再資源化ソリューション	21
エコ・ファーストの取り組み	23
環境負荷低減活動	24

■ 社会のために

お客さまのために	25
安全衛生のために	26
社員のために	27
地域・社会とのかかわり	29

■ 経営体制

コーポレート・ガバナンス	31
事業ハイライト	33
事業拠点	34

会社概要(2019年6月末現在)

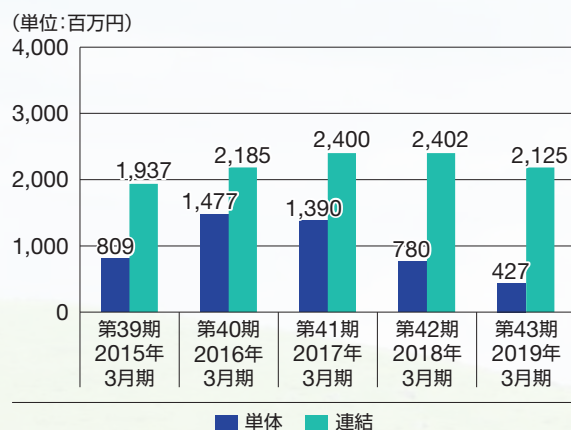
タケエイグループでは各地の企業と積極的に連携を深め、事業領域と事業地域を拡充しています。これにより、お客様の多様なニーズに最適なソリューションサービスをお届けできる体制づくりを進めています。

会社名	株式会社 タケエイ
代表者	代表取締役社長 阿部 光男
設立年月日	1977年3月7日
資本金	6,640百万円
所在地	東京都港区芝公園2丁目4番1号 A-10階 TEL:03-6361-6830(代表) FAX:03-6361-6835
従業員数	単体 625名 連結 1,300名
上場取引所	東京証券取引所市場第1部

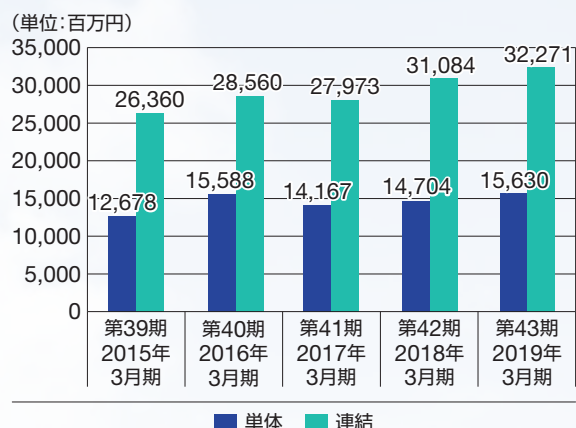
事業推移

タケエイグループは「総合環境企業」を目指し、廃棄物処理・リサイクル事業を推進するとともに、非廃棄物分野においても再生可能エネルギー事業、環境エンジニアリング事業、環境コンサルティング事業に注力してまいりました。特に、主力の廃棄物処理・リサイクル事業は売上高が堅調だったものの、年度前半においては中間処理工場での原価率が高位に推移しました。年度後半においては改善傾向にあります。この結果、2018年度の連結売上高は32,271百万円(全連結会計年度比3.8%増)、営業利益は2,125百万円(同11.5%減)、経常利益は1,814百万円(同20.9%減)となり、親会社株主に帰属する当期純利益は275百万円(同79.7%減)となりました。

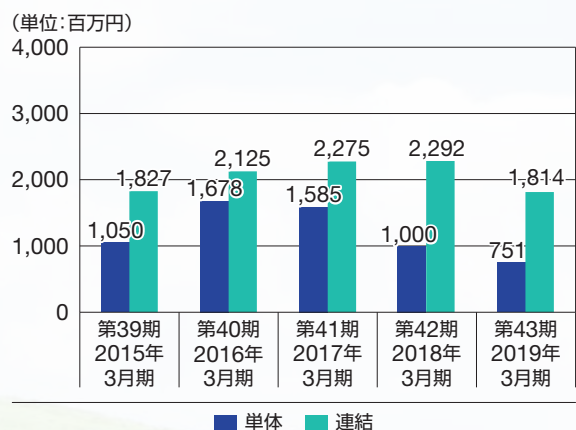
営業利益



売上高



経常利益



事業概要

廃棄物の適正処理・再資源化のノウハウ

再生可能エネルギーの地産地消スチーム

建設廃棄物処理・リサイクル

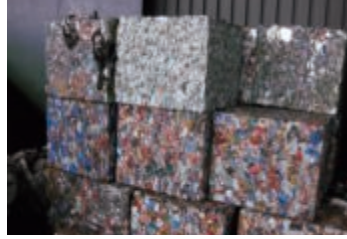
建設工事や解体工事等から発生する建設混合廃棄物を中心に、各種の機械設備や再資源化施設による徹底したリサイクルを行っています。



(株)タケエイ(手選別風景)

マテリアルリサイクル

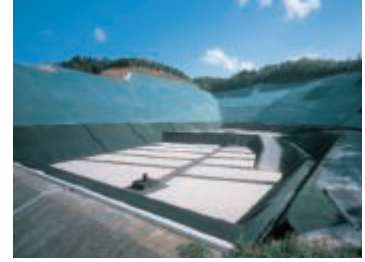
廃石膏ボードや鉄・非鉄スクラップ、工場から排出される廃液など特定の品目は、再資源化の品質と効率性を高めるため、その品目に特化したリサイクル工場で処理しています。



(株)タケエイメタル
(圧縮されリサイクルされる金属類)

ランドフィル(最終処分場)

タケエイグループでは安定型最終処分場および管理型最終処分場を保有しています。いずれも、法令や条例等の規制を遵守するとともに、徹底した水質管理を行っています。



(株)北陸環境サービス(管理型最終処分場)

環境コンサルティング

社会問題となっている有害廃棄物等の測定・分析や適切な処理の提案・コンサルティングなどを通じ、お客さまのニーズに応えます。



環境保全(株)(分析風景)

環境エンジニアリング

環境装置や特殊車両の開発・製造・販売を行っています。廃棄物処理に関するノウハウに機械設計のノウハウを融合・発展させ、新たな環境装置の開発を進めます。



富士車輛(株)(RPF製造設備)

再生可能エネルギー

間伐材や剪定枝などの未利用材を活用し発電するバイオマス発電事業や、最終処分場の跡地を有効活用した太陽光発電事業などにより、地域・自然環境に貢献できる発電事業を行っています。



(株)花巻バイオマスエナジー(バイオマス発電所)

TOP MESSAGE



資源とエネルギーを社会の中で循環させ 産業の「静脈」と「動脈」の役割を同時に担う 総合環境企業を目指してまいります。

タケエイは、日本が高度経済成長の真っただ中にある1967年に創業し、そこから52年間立ち止まることなく進化を続けてきました。私も、過去から未来へと続くタケエイグループの歩みの中で、経営の舵取りを任された期間、社長としての責任を果たし、次の世代にバトンタッチをするまで、総合環境企業としての更なる高みを目指し全力で走ってまいります。

タケエイグループが属する廃棄物処理・リサイクル業界は、社会で使用された後の廃棄物を収集し処理することから「産業の静脈」と言われています。しかし、実際にはそれだけにとどまらず、資源とエネルギーを社会の中で循環させる役割を担っています。タケエイグループは、さまざまな廃棄物をリサイクル製品やエネルギーへと生まれ変わらせ、それがまた私たちの暮らしのさまざまな場面で役立っております。産業の静脈だけでなく、動脈の役割も同時に担っている業界であると私は考えています。

これまで、廃棄物を適正に処理するという社会課題解決型のビジネスを展開してきた私たちですが、現在の事業領域で満足することは決してありません。社会に存在している隠れたニーズまで汲み取り、そうしたニーズに沿った取り組みをタケエイグループの新たな事業の柱に育てていきたいと考えています。

社会が次の世代へとバトンを引き継いでいく中で、少しでも良い環境を残していくお手伝いをすることが、タケエイグループの使命だと考えています。そのためには、従業員一人ひとりに至るまでの意識の高さと質の高い取り組みが欠かせません。今後は、私自ら先頭に立ち、これまで以上に環境経営へ取り組んでまいります。ステークホルダーの皆さまには、今後とも変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

代表取締役社長 **阿部 光男**

トップ対談

タケエイが社会の持続可能性に貢献する 「総合環境企業」であるために

タケエイは、令和という新たな時代が幕を開けた2019年7月に新たな経営体制をスタートさせました。この先の10年、さらには来たるべき創業100年に向けて、タケエイがこれからも持続可能な企業であり、社会の持続可能性に貢献する「総合環境企業」であるために大切なものは何か。長年経営に携わってきた代表取締役会長の三本守と新たに代表取締役社長に就任した阿部光男の両者が膝を突き合わせ、タケエイが社会で果たしていく役割についてお互いの想いを語り合いました。

タケエイ半世紀の歩みと 環境への取り組み

阿部:最近また、マイクロプラスチックによる海洋汚染など、廃棄物にかかわる環境問題がクローズアップされていて、社会の環境意識の高まりはとどまるところを知りません。少し前まではストローやレジ袋がここまで悪くされるとは思ってもみませんでした。私は2年前にこの業界に来たので、当社の創業からの取り組みをこの目で見てきたわけではありませんが、会長は社会全体の環境意識の変化と当社の役割の変遷をどのように見ておられますか？

三本:昭和42年創業ですから今年で52年経ちますが、最初の頃は私たち自身も特に環境意識が高かったわけではなく、当時は環境保護に関する法律も整備されていませんでした。「リサイクル」という概念もなかったですね。大量生産、大量消費、そして大量廃棄。そういう時代でした。

しかし、経済成長とともにさまざまな公害が発生した状況を受けて、1970年に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」、いわゆる廃掃法が整備され私たちの事業も許可制に変わりました。タケエイが企業として初めて環境問題を意識した時だったと思います。それ以降、廃掃法を学ぶことによって自らの専門性を高めていくという意識に変わり、現在に至っているわけです。

阿部:その当時はまだ国内の問題として向き合っていればよかったわけですが、今や海外の一部の国で廃プラスチック類の輸入を禁止するなどグローバル規模の問題になっています。タケエイグループは、これまでずっと廃棄物処理を海外に委託すること

を良しとせず、国内での処理を進めてきましたから、国内で処理せざるを得ない廃棄物が増えると、我々の役割がますます高まってきそうです。

三本:確かに今は、廃プラスチック類の行き先がなくなってどの業者も困っている状況です。タケエイグループとしては、海外の動向に左右されず、国内における適正処理とリサイクルを加速させるために施設整備を図り、これまで以上に再資源化を効率よく進めていかないとならないでしょう。

阿部:現時点では、廃プラスチック類から固形燃料のRPFを製造してエネルギーを熱回収するサーマルリサイクルがメインの事業であるわけですが、今後は、廃プラスチック類をもう一度プラスチック製品の原料に戻すマテリアルリサイクルに本腰を入れる方向へと舵を切っていくつもりです。

資源循環の到達点として タケエイはモノづくり企業を目指す

三本:タケエイは、これまでも廃棄物の再資源化までは取り組んでおりますが、現在、国内の一部でリサイクルをした資源の使い道が定まらないまま大量に集まり過ぎて、なかなか引き取っていただけず、焼却処分しなければならぬものがあるという歯がゆい状況です。この状況を打破するためには、やはりタケエイ自身が新たな製品づくりまで担う必要があります。

私が考えてきた「総合環境企業」の到達点はどこかと言いますと、「モノづくり」であり、製造業なんですよ。今はまだ廃棄物処理

代表取締役会長
三本 守



代表取締役社長
阿部 光男



業、あるいはリサイクル事業に軸足を置いているわけですが、究極は製造業。そこを目指していくのが私の願いです。

阿部: 会長のそのお考えと、私の「タケエイは産業の動脈も担う」という考え方は軌を一にしていると思っています。今後、新たな製品づくりを進めることを前提として、廃プラスチック類をもう一度プラスチック製品の原料に戻すことに、取り組んでいきます。その具体化の第一段階として、廃プラスチック類を原料としたペレット製造に向けて工程の構築に着手したところです。

三本: やはり今後はサーマルリサイクルよりも、マテリアルリサイクルの方に力を入れていくのが社会の要請としても大きくなるはず。現時点では、例えば製鉄所で鉄をつくる過程で泡立ちを押さえるフォーミング抑制剤なども製造していますが、製品化の選択肢は決して多い状況ではありません。しかし、資源循環を完結させるための到達点は「モノづくり」であり、製品化するまでが私たちの責任であり、果たすべき役割であると思っています。

阿部: 価値のある製品を生み出すにあたっては、廃棄物の選別強化も重要ですね。そのため「廃棄物は分ければ資源」という考え方に立って、ライン上でごみを分別する機能を高めて中間処理施設における選別を強化しています。例えば「木くず」を高い精度で分別できれば、当社のもう一つの事業の柱であるバイオマス発電の燃料になります。そのほかにも、スクラップや段ボールなども資源化の際に価値が高められるはず。資源循環を完結させるためには、「産業の静脈」として収集した廃棄物から新しい製品を創造し、それを今度は「産業の動脈」として社会に提供するという考え方で、マテリアルリサイクルを進

めて行きたいと思います。

三本: 社会から排出される廃棄物を対象に新たな価値を生み出すという循環のすべてにタケエイがかかわっていくことこそグループとしての大きな目標ですから、経営体制が新しくなっても変わることなく引き継いでいってほしいと思います。

バイオマス発電事業で地域の課題を解決する

阿部: 一方、もう一つの柱であるバイオマス事業では、今年の10月、横須賀バイオマスエナジー（以下、横須賀BE）という新しい発電所が完成します。これは「都市型バイオマス発電」を事業として軌道に乗せるための試金石になると考えています。

三本: もともとバイオマス発電事業の取り組みは、2003年に首都圏の建設系廃棄物から出る廃木材を燃料にした5万kWのバイオマス発電所を千葉県内に設立したのが始まりでした。20万トンという木くずを燃料として供給するスキームをタケエイが中心となって廃棄物処理業界を取りまとめ、約30社の団体がチップを製造し安定供給するスキームをつくりました。

その後は東日本大震災の被災地を中心に、各地域の里山の保全と同時に新たな産業として雇用を生み出せる事業の要請を地域の皆さまからいただいて、それにタケエイが応える形でバイオマス発電事業が拡大してきたというのがこれまでの経緯です。そのため、現在は青森、岩手、秋田にて発電所が稼働しています。

阿部: 横須賀BEではRPFもちろん使うのですが、主燃料には

公園や道路の街路樹から剪定した枝を使います。剪定した枝は堆肥化するなどしてリサイクルする方法もありますが、横須賀BEでバイオマス燃料として発電に活かすことができれば、都市型の地産地消でリサイクルを完結することができます。

阿部：あと、発電の際には蒸気が発生しますから、その蒸気の余熱を利用することも計画しています。これまでの地方にある発電所では、ミニトマトの栽培に余熱を活用するなど比較的小規模の事業化を図ってきましたが、ゆくゆくはタケエイグループとして大々的に農業を展開できるような余熱利用を考えていきたいと思っています。

三本：例えば地域から発生する廃棄物を利用した発電所が今後増えていけば地域の中でサーマルリサイクルできるだけでなく、エネルギー供給はもちろん、農産物などの産業化まで可能性が広がりますね。タケエイがこうした新しいチャレンジをしていることに対しては、ステークホルダーの皆さまにも大いに期待をしていただきたいと思っています。

SDGsへの貢献を視野に入れていく

阿部：企業がCSR活動を進めていく上での一つの指針として、2015年に国連が策定したSDGs(持続可能な開発目標)が注目を集めています。会長ご自身はSDGsについて、どのような関心を持たれていますか？

三本：SDGsには17項目の目標があるわけですが、その多くが当社の事業とかかわっていると思っています。ただ、私個人としては「持続可能な開発」という言葉そのものに注目しています。持続可能性を考えながら、それでも開発はしていかなければな

らないという側面です。

タケエイは、リサイクルを進める一方で、その補完機能として最終処分場も保有しています。この先どれほどリサイクルを進めても、最終処分場も継続的に開発しなければ、100%の適正処理は困難です。文字通り「持続可能性を考えながらの開発」を進めて行くことはタケエイの責任であると思っています。

阿部：確かに最終処分場の開発は地域の方々のご理解を得なければならないものですから、非常に困難を伴う事業の一つです。もちろん環境アセスメントもしっかり実施しているわけですが、やはり廃棄物を埋め立てるという行為に対して、依然としてネガティブイメージが強いことは否めません。

三本：行政の許認可を取得することにも長い時間がかかる中、それでも私たちは社会における自らの責任として「持続可能な開発」という意識を強く持ち続けることが大事です。そして、結局はそれが社会から理解をいただく一つの要因になるのではないかと思いますね。

阿部：私はSDGsの中でも、目標14の「海の豊かさを守ろう」と目標15の「陸の豊かさを守ろう」が、タケエイの事業との関連性においてど真ん中だと思っています。タケエイの事業を平易な言葉で表現すると「水と空気と大地と食とエネルギーに役立つことは何でもやろう」ということだと思っています。

タケエイグループが、一生懸命リサイクル・リユース・リデュースを進めれば陸上だけではなく、海に流れ出してしまう廃棄物も少なくなるわけですから。それに会長も「バイオマス発電は水もきれいにする」と、いつもおっしゃっていますね。

三本：バイオマス発電事業を通じて山がきれいになると水もきれいになるというのは本当のことですよ。里山が荒れてしまうと、そ



の里山に降った雨が流れ出てくる際にきれいで豊かな水にはならないですね。逆にしっかり整地して植林をし、適切な管理がなされれば、健全な森が育ち、その土壌からは豊富な栄養素を含んだ豊かできれいな水が流れ出てくる。里山の間伐材を活かした我々のバイオマス発電事業には、そういう側面も存在しています。

阿部：つまりバイオマス発電は、発電という再生可能エネルギー事業でもあり、トマト栽培などの食の事業にもつながっていて、さらに山も海もきれいにする。まさに「水と空気と大地と食とエネルギー」そのものだと私は思っているんです。

SDGsの中でも、特に目標7の「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」や目標13の「気候変動に具体的な対策を」など、環境に関連する目標についてはほとんどの企業が関心を持っていると思いますが、タケエイの場合、目標14や目標15も含め、事業全体がSDGsそのものであると考えています。

コンプライアンスはこの業界の基本中の基本

阿部：そのほかに、会長がこれまでCSR活動の中で特に重視してこられたのは何ですか？

三本：それはもうコンプライアンスですね。コンプライアンスは、この業界では基本中の基本で、徹底して守る意識が私たちの業界では欠かせないものです。

阿部：確かに。コンプライアンスについては、ことあるごとに注意を喚起して社員の意識を高めてこられたのを私も見ていましたし、日々の会議でも、コンプライアンスの重要性を非常に厳しく説かれています。

三本：法令違反をすればすぐに事業許可が取り消されるわけですから、この業界は。普通の業種であれば、せいぜい一定期間の営業停止で済みますが、私たちの場合は事業許可の取り消しです。一度取り消されると5年間事業ができませんので、おのずから倒産します。

阿部：そのくらい大きなリスクを背負った事業にかかわるものとして、社員一人ひとりがコンプライアンス意識を高めていくことは、今後のタケエイグループにとっても、引き続き大きなテーマです。グループ全体にコンプライアンス意識を浸透させるため、私も折に触れてその大切さを説いていきたいと思えます。

三本：意識が薄れた時に必ず何かがかかりますから、トップ自ら継続的に社員の意識啓発を行っていくことが大前提であると思っております。

対談の終わりに

阿部：今回の対談で会長と私の経営方針への共通認識はより高まったと思いますが、社会の持続可能性に貢献する「総合環境企業」であるためには、従業員一人ひとりの取り組みや意識も重要であると思っています。そのためにも、今後は社長である私自身がさまざまな活動に率先して取り組み、トップの意識を伝えていきたいと思えます。

三本：この対談に目を通された皆さまには、我々タケエイグループが取り組んでいるさまざまな環境活動や事業の内容について少しでも知っていただきたい、それがいちばんの願いです。また、当社をより理解していただくための資料の一つとして、このCSR報告書をお読みいただければ幸いです。



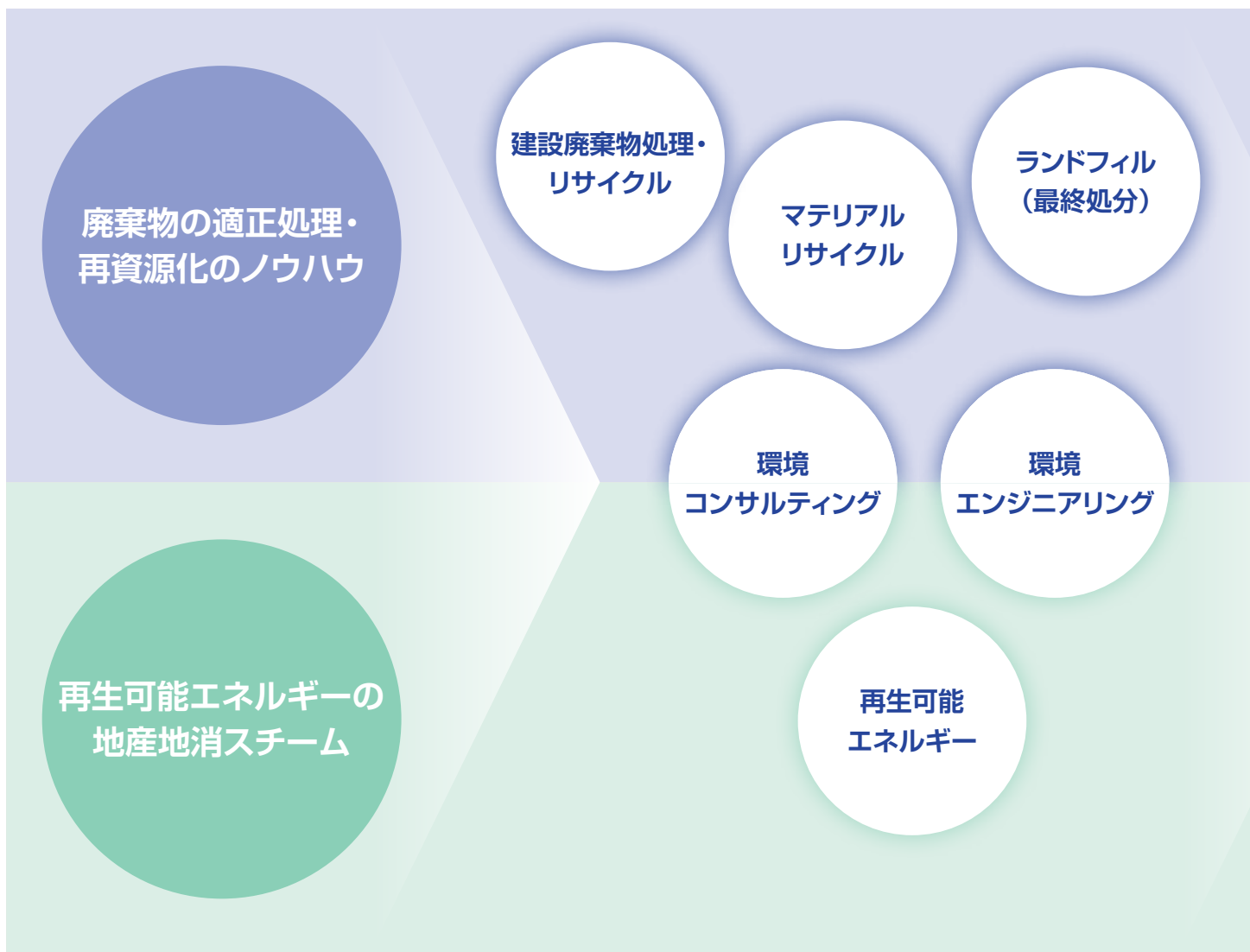
タケエイグループの価値向上プロセス

タケエイグループは、長年培ってきた廃棄物の適正処理およびリサイクルのノウハウを活かした「廃棄物処理・リサイクル事業」と、電気の地産地消を目指した「再生可能エネルギー事業」の2つを軸に事業を展開しています。廃棄物処理における総合的なソリューションサービスの提供や、地産地消型の木質バイオマス発電事業を通じて、社会課題の解決に取り組んでいきます。

投下資本	人的・知的資本	社会・関係資本
	従業員数 625人(タケエイ単体) 1,300人(グループ全体)	事業拠点数 37拠点 産業廃棄物収集運搬可能エリア 23都府県

タケエイグループの事業

事業活動



社会の変化

- 廃棄物の循環利用に対するニーズの高まり

- 都市の再構築に伴う廃棄物の増加

製造資本

設備投資額 8,817百万円

財務資本

自己資本 26,960百万円

自然資本

環境マネジメントシステム
認証取得済みグループ会社数 9社

アウトプット

ステークホルダー

アウトカム

製品原料等

マテリアルリサイクル

生産量 505,974t
P.22

発電燃料等

サーマルリサイクル

生産量 115,338t
P.22

電気

発電量 98,837MWh
P.21

高糖度トマト

生産量 16.5t

お客さま

- さまざまなニーズを解決

地域住民

- 安全な生活環境の確保
- 地域課題の解決

株主・投資家

- 経営の安定
- 成長と利益の還元

取引先

- 対等で公正な関係

社員

- 安全で働きやすく
働きがいのある環境の提供

総合環境企業

- 廃棄物処理法の強化

- クリーンエネルギーへの需要の増加

- 地球温暖化対策への関心の高まり

特集 株式会社タケエイグリーンリサイクル

木のリサイクル

株式会社タケエイグリーンリサイクルは自然豊かな富士山の麓でリサイクル事業を展開しています。2019年5月に、新工場が完成しました。引き続き、資源循環型社会の形成へ貢献すべく、事業を進めてまいります。



新しい工場が完成しました

(株)タケエイグリーンリサイクルは、富士山の裾野にある山梨県富士吉田市に本社工場を置く、木くずの100%リサイクルを行う中間処理工場です。屋外作業による環境負荷の改善ならびに破碎処理施設の老朽化の改善のため、本社工場のリニューアルを行いました。リニューアル後の新しい工場には破碎機を2台配置し、日量500トン以上の処理が可能となりました。また、木くずの選別・処理に使用するロータリース

クリーンやトロンメルといった機械も配置し、従来よりも高品質な製品が効率的に生産できるようになりました。2019年9月には既存工場を含むリニューアル工事が完了する予定で、従業員教育を行い安全性に配慮するとともに、お客さまの利便性向上に向けて整備を行っております。当社は、自然との調和、地域住民の皆さまとの共生を基調として、総合環境企業の一員としての社会的責任を果たし、お客さま、時代のニーズに対応できるよう取り組んでまいります。



富士ヶ嶺第一工場

富士ヶ嶺第二工場



富士ヶ嶺第三工場



本社工場全景

事業概要

(株)タケエイグリーンリサイクルでは、自治体・造園業・建築業等から排出された剪定枝や生木を細かく砕き木質チップに加工し、バイオマス発電燃料や土壌改良剤(バーク堆肥)、地元の酪農家が使用する敷料としています。また、酪農家を使用した敷料は牛糞等と混じり堆肥化され、それらの牛糞堆肥を再び買い取ったものを原料として、有機肥料を製造しています。このように、同社では本来なら捨てられてしまうはずの木くずの100%リサイクルに取り組んでおり、資源循環型社会の形成に貢献しています。



木のリサイクル

枝葉
草類
根株
丸太



(株)タケエイグリーンリサイクルでは、木の生育や樹形の管理のために切り落とされた枝葉(剪定枝)や、伐採された竹、丸太、根株等の100%リサイクルを実施しています。本ページでは、同社が取り組む「木のリサイクル」の仕組みをご紹介します。



本社工場 受け入れ→破碎→ふるい分け→チップ搬出



受け入れ
自治体・造園業・建設業等より排出された剪定枝や生木(木くず)がリサイクル工場へ搬入されます。搬入された木くずはトラックスケールで計量した後、一般廃棄物と産業廃棄物のそれぞれに分けて降ろします。



前処理
搬入された木くずの形状を確認し、必要に応じて重機で前処理を行います。設備に投入しやすい大きさに整えます。



中間処理(破碎等)
重機を使って木くずを破碎機に投入し、細かく粉碎します。破碎機にて粉碎されたチップは、ふるい機やトロンメル(分粒装置)により大きさを分けられます。
10mm以下: 敷料
10mm~50mm: 燃料チップ



チップ 10mm~50mm



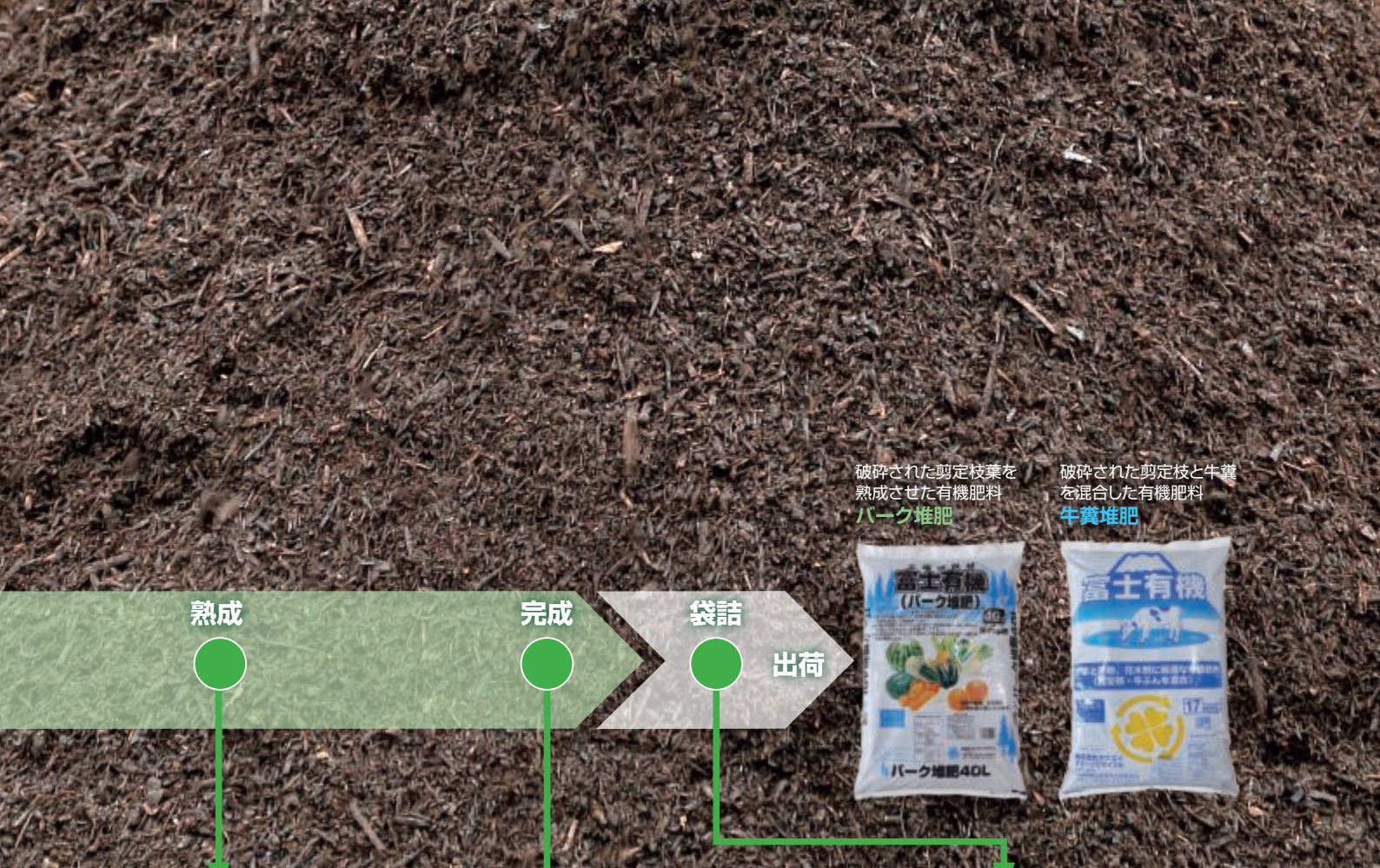
チップ 10mm以下



バイオマス発電所 燃料



10mm~50mmの木質チップは、バイオマス発電所に納品され、バイオマス発電の燃料となりエネルギーに生まれ変わります。



破碎された剪定枝葉を
熟成させた有機肥料
バーク堆肥

破碎された剪定枝と牛糞
を混合した有機肥料
牛糞堆肥



熟成

完成

袋詰

出荷

富士ヶ嶺第一工場
熟成→バーク堆肥

ふるい(異物除去)→完成

富士ヶ嶺第三工場
袋詰→出荷



10mm以下の木質チップは、富士ヶ嶺第一工場にて熟成発酵させ、土壌改良剤(バーク堆肥)として生まれ変わります。

酪農家 家畜敷料→牛糞堆肥



10mm以下の木質チップは、酪農家に納品され、家畜の敷料として使用されます。また有機肥料の原料とするため、牛糞と混合された敷料を再び買い取っています。



富士ヶ嶺第一工場にて熟成発酵させた木質チップや酪農家から買い取った牛糞と混合された敷料について、トロンメル(分粒装置)にかけることで異物の除去作業と粒度調整を行います。



富士ヶ嶺第三工場では全自動袋詰め機を導入しており、袋詰めからパレットへの積上げまでを自動化し製品化しています。同社のバーク堆肥は、必要最低限しか人の手を加えず、自然環境の中で完全熟成発酵させることで自然につくり上げることにこだわった土壌改良剤です。また、牛糞堆肥はJAS認定を受けた有機堆肥で、場所を選ばず安心してご使用いただけます。

タケエイグループのCSRマネジメント

総合環境企業としての社会的責任を果たしさらなる企業価値の向上を図るためには、事業活動を通じた社会課題の解決に取り組むことが重要ととらえ、タケエイグループではCSR活動を推進しています。

<p>経営理念</p>	<p>自然との調和、地域住民との共生を基調として、環境負荷の低減を前提とした資源循環型社会へ貢献するために、多様なニーズに対応したリサイクル技術の確立と施設の充実を推進する。</p> <p style="text-align: center;">環境のために E</p>							
<p>SDGsの目標</p>								
<p>活動の内容</p>	<p>環境とのかかわり</p>	<p>事業活動に伴う環境負荷</p>	<p>再資源化ソリューション</p>	<p>エコ・ファーストの取り組み</p>	<p>環境負荷低減活動</p>			
<p>2018年度の活動と掲載ページ</p>	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%; text-align: center;">  <p>デジタルタコグラフを搭載した収集運搬車両</p> <p>環境負荷低減に向けた取り組みが表彰されました</p> <p>環境負荷の低減に貢献するため、環境負荷の大きな物流部門でエコドライブを実施したり、本業である廃棄物処理技術を活かした取り組みを行っており、2018年度は2つの賞を受賞しました。</p> <p>▶ P.24</p> </td> <td style="width: 33%; text-align: center;">  <p>エコ・ファースト推進協議会総会</p> <p>エコ・ファースト推進協議会の副議長に就任しました</p> <p>2008年より「エコ・ファースト企業」として環境大臣より認定を受け、「エコ・ファーストの約束」に基づきさまざまな取り組みを推進しています。2018年4月からは、当社代表がエコ・ファースト推進協議会の副議長に就任しました。</p> <p>▶ P.23</p> </td> <td style="width: 33%; text-align: center;">  <p>大仙バイオマスエナジー</p> <p>グループ各社の電気使用量を上回る量のFIT電気を創出</p> <p>2019年2月に、当社グループ3ヵ所目となる木質バイオマス発電施設((株)大仙バイオマスエナジー)が営業運転を開始しました。2018年度のグループ全体の発電量は111,981MWhとなりました。</p> <p>▶ P.20</p> </td> </tr> </table>					 <p>デジタルタコグラフを搭載した収集運搬車両</p> <p>環境負荷低減に向けた取り組みが表彰されました</p> <p>環境負荷の低減に貢献するため、環境負荷の大きな物流部門でエコドライブを実施したり、本業である廃棄物処理技術を活かした取り組みを行っており、2018年度は2つの賞を受賞しました。</p> <p>▶ P.24</p>	 <p>エコ・ファースト推進協議会総会</p> <p>エコ・ファースト推進協議会の副議長に就任しました</p> <p>2008年より「エコ・ファースト企業」として環境大臣より認定を受け、「エコ・ファーストの約束」に基づきさまざまな取り組みを推進しています。2018年4月からは、当社代表がエコ・ファースト推進協議会の副議長に就任しました。</p> <p>▶ P.23</p>	 <p>大仙バイオマスエナジー</p> <p>グループ各社の電気使用量を上回る量のFIT電気を創出</p> <p>2019年2月に、当社グループ3ヵ所目となる木質バイオマス発電施設((株)大仙バイオマスエナジー)が営業運転を開始しました。2018年度のグループ全体の発電量は111,981MWhとなりました。</p> <p>▶ P.20</p>
 <p>デジタルタコグラフを搭載した収集運搬車両</p> <p>環境負荷低減に向けた取り組みが表彰されました</p> <p>環境負荷の低減に貢献するため、環境負荷の大きな物流部門でエコドライブを実施したり、本業である廃棄物処理技術を活かした取り組みを行っており、2018年度は2つの賞を受賞しました。</p> <p>▶ P.24</p>	 <p>エコ・ファースト推進協議会総会</p> <p>エコ・ファースト推進協議会の副議長に就任しました</p> <p>2008年より「エコ・ファースト企業」として環境大臣より認定を受け、「エコ・ファーストの約束」に基づきさまざまな取り組みを推進しています。2018年4月からは、当社代表がエコ・ファースト推進協議会の副議長に就任しました。</p> <p>▶ P.23</p>	 <p>大仙バイオマスエナジー</p> <p>グループ各社の電気使用量を上回る量のFIT電気を創出</p> <p>2019年2月に、当社グループ3ヵ所目となる木質バイオマス発電施設((株)大仙バイオマスエナジー)が営業運転を開始しました。2018年度のグループ全体の発電量は111,981MWhとなりました。</p> <p>▶ P.20</p>						

SDGs(Sustainable Development Goals)

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。



<p>社会のために</p> <h1 style="color: orange;">S</h1>				<p>経営体制</p> <h1 style="color: blue;">G</h1>
お客さまのために	安全 衛生のために	社員のために	地域・ 社会とのかかわり	コーポレート・ガバナンス
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>環境保全活動の様子((株)池田商店)</p> <p>地域清掃への参加、事業所・工場周辺の清掃活動を行いました</p> <p>タケエイグループでは、地域清掃への参加や事業所・工場周辺の清掃活動を通じて、環境美化への貢献に取り組んでいます。</p> <p>▶ P.29</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>親子見学会 ((株)タケエイ 東京リサイクルセンター)</p> <p>環境学習や施設見学を通して、地域の方々との交流の場を設けています</p> <p>タケエイグループでは、地域の学生向けの施設見学や、子ども向けの環境体験学習を行うことで、地域の方々との交流を図っています。</p> <p>▶ P.30</p> </div> </div>				<p>株主総会</p> <p>さらなる組織力向上のため、経営体質の強化を目指しています</p> <p>タケエイグループでは、コーポレート・ガバナンスの着実な実践を重要な経営課題として位置づけ、各種委員会の設置等により内部統制システムを整備しています。</p> <p>▶ P.31-32</p>

環境とのかかわり

タケイグループではタケイグループ環境基本方針を掲げ、環境活動を推進しています。また、環境推進体制を整備するとともにグループ各社で環境目標を設定し、継続的な改善に向けて取り組みを進めています。

環境基本方針

タケイグループ環境基本方針

タケイグループは、環境に携わる企業として、企業と社会がともに持続的成長が可能な未来を実現すべく、次の4つを活動テーマに掲げ積極的に取り組みます。

1. 資源循環型社会の実現に貢献します。
2. 低炭素社会の実現に貢献します。
3. 地域や社会に根ざした環境活動を推進します。
4. 環境活動の推進体制を充実します。

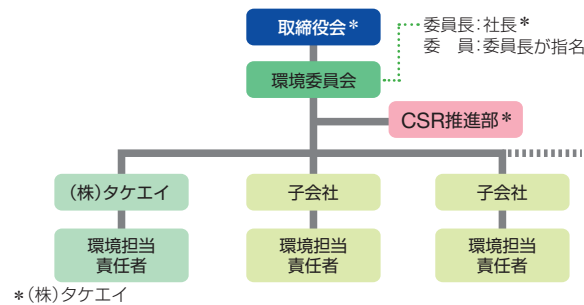
タケイグループ環境基本方針は、ホームページで全文を公開しています。

<http://www.takeei.co.jp/environment01.html>

環境推進体制

タケイグループでは、地球環境の保全に配慮した企業活動に取り組むため、環境推進体制を整備しています。グループ全体で環境活動を推進するため(株)タケイの代表取締役社長を委員長として、環境情報の共有や協議を行う場である環境委員会を設置するとともに、グループ各社に環境担当責任者を選任しています。

タケイグループ環境推進体制



マネジメントシステムの運用

タケイグループでは、環境マネジメントを推進する有効なシステムとして、環境に関する国際規格であるISO14001や環境省が策定したマネジメントシステムであるエコアクション21の認証を取得しています。

2018年に行われた(株)タケイのISO14001およびエコアクション21における外部審査では不適合はありませんでした。また当社では業務において考慮すべき環境関連の法規制や条例等を特定し、その遵守に努めるとともに、行政への報告時期や法令の運用が適正に行われているかどうか、年に2回状況を確認しています。

環境マネジメントシステム認証の取得状況

環境認証の種類	取得組織	取得(登録)年月
ISO14001	(株)タケイ*1	2001年2月
	(株)北陸環境サービス*2	2004年7月
	(株)信州タケイ	2001年12月
	富士車輛(株)*3	2001年3月
	(株)タケイグリーンリサイクル*4	2007年6月
エコアクション21	イコールゼロ(株)	2001年3月
	(株)タケイ東京リサイクルセンター	2007年9月
	(株)池田商店	2007年8月
	(株)タケイメタル	2017年4月
	(株)ギプロ	2017年10月

*1 産業廃棄物の処理業務における営業部門、収集運搬部門、最終処分部門、管理部門、中間処理部門(川崎RC/四街道RC)

*2 本社および平栗工場

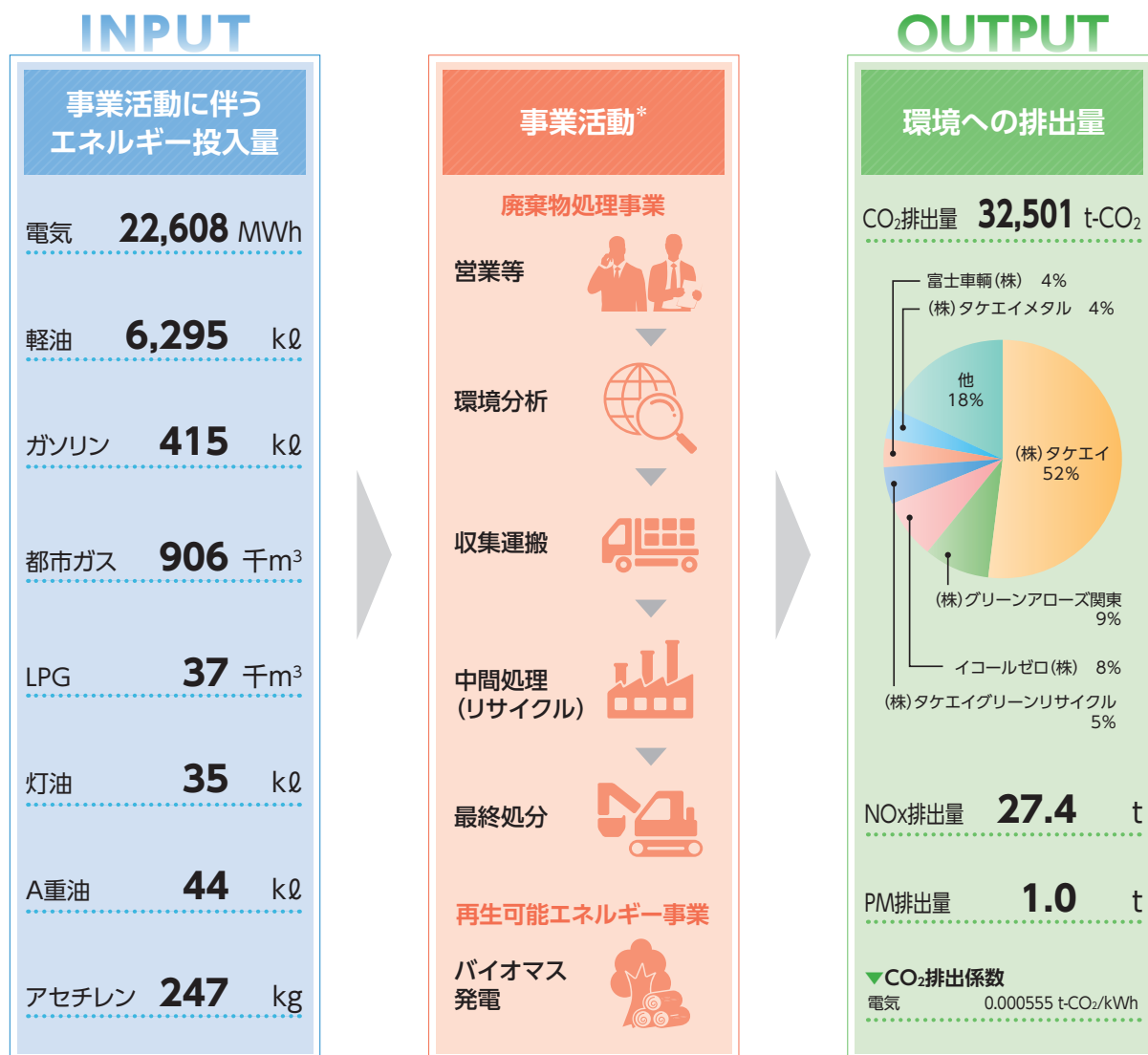
*3 本社 *4 本社、富士ヶ嶺工場

環境目標

タケイグループでは、環境基本方針に基づき事業活動における環境目標を各社ごとに策定し、年度末に分析・評価しています。また、地球環境に大きな影響を与える二酸化炭素の排出量については、グループ各社が数値を把握することで、排出量の管理や削減に役立っています。今後も引き続き環境目標を設定し、環境改善を行っていきます。

事業環境に伴う環境負荷

タケエイグループでは、廃棄物処理事業や再生可能エネルギー事業といった、事業活動に伴うエネルギーの使用量および環境負荷について適切に把握し、地球環境への負荷低減に向けた取り組みに活かしています。



*収集運搬・中間処理(リサイクル)・最終処分およびバイオマス発電の詳細については、P21-22をご覧ください。



タケエイグループの再資源化ソリューション

タケエイグループが行う廃棄物の収集運搬・中間処理(リサイクル)・最終処分の流れと、当社グループで処理したリサイクル品がどのように使われているのかをご紹介します。

産業廃棄物処理・リサイクル事業

建設現場等

(廃棄物発生場所)



収集運搬

724,489t*1

建設現場や工場などから排出される産業廃棄物を収集し、当社グループのリサイクル工場まで運搬します。



発生した産業廃棄物の性状や量に適した車両で収集・運搬します。

中間処理

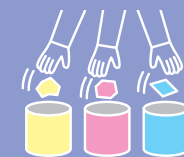
694,107t*2

リサイクル工場に運ばれた産業廃棄物は、人の手や機械・重機で選別し、異物を取り除きます。その後、品目ごとにリサイクルに適した品質・ロットに整え、リサイクル品となります。

混合廃棄物



手選別



手作業でリサイクル品(廃プラスチック・紙くず・金属くずなど)を抜き取り、選別する。

機械選別



振動と風力で廃棄物の大きさ(サイズ)と重さ(比重)を選別する。

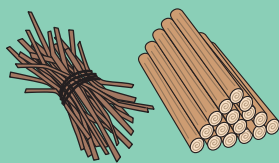
破碎



リサイクルに適した大きさ(サイズ)にするため、破碎する。

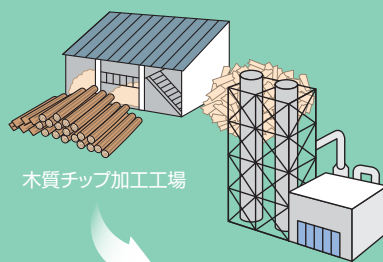
再生可能エネルギー事業

未利用材



間伐材・りんご剪定枝等

161,120t



木質チップ加工工場

バイオマス発電所

発電

発電量 98,837MWh

(バイオマス発電と太陽光発電による売電量)

最終処分
(当社グループの
リサイクル工場から発生)
72,795t*3

リサイクル

621,312t

リサイクル工場で処理されたものは、リサイクル品として製造工場(メーカー)へ運ばれ、建設資材や各種製品の原材料として利用されます。

マテリアルリサイクル

サーマルリサイクル

- *1 当社グループが保有する車両による運搬量
- *2 当社グループのリサイクル工場で受け入れ、処理した量(他社車両による受入量も含む)
- *3 当社グループのリサイクル工場から発生した最終処分量
- *4 当社グループの最終処分場で受け入れ、埋め立てした量(他社からの受入量も含む)

最終処分(最終処分場)

72,209t*4

再資源化に適さない廃棄物や残渣物は、最終処分場で埋立処分します。当社グループの最終処分場では、環境負荷を徹底的に排除した管理・運営を行っています。

環境のために

土木資材 [再生砕石(RC-40、砂品等)]

生産量 355,082t

破砕機で一定のサイズに砕かれたコンクリートや、機械選別でサイズを揃えた砕石・砂品などは、路盤材や埋め戻し材として生まれ変わります。

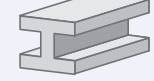


土木資材

鉄・非鉄原料

生産量 25,518t

鉄骨やパイプ等の金属は切断等の処理がされ、種類別に分けられます。製鉄メーカーなどで原材料として利用され、再び鉄・非鉄製品となります。

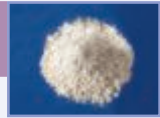


鉄

石膏ボード原料、 セメント系固化材原料

生産量 64,376t

石膏ボードは特殊な処理によって石膏粉と紙に分けられます。石膏粉は再び石膏ボードとして生まれ変わり、建材として使用されます。



石膏ボード

製紙原料

生産量 7,397t

ダンボールや石膏ボードの紙の部分は圧縮処理され、製紙メーカーで原材料として利用され、再びダンボール等の紙製品となります。



ダンボール

再生プラスチック原料

生産量 3,998t

塩ビ管やタイルカーペット等の廃材は、破砕・圧縮などの処理が行われます。塩ビ管などのプラスチック製品の原材料や、燃料として利用されます。



塩ビ管

製鉄副資材(エコ・フォーム)

生産量 3,940t

廃棄物処理の際に発生する粉じん(ホコリ)は、ほかの廃棄物と混ぜて固め、エコ・フォームとなります。製鉄工程において転炉内の泡立ちを防止するための添加材(フォーミング抑制材)として利用されます。



鉄

堆肥原料等

バイオマス発電燃料

生産量 26,853t/49,778t

破砕機で一定のサイズに砕かれた廃木材等は、発電用の燃料として利用されます。剪定枝などは破砕後に熟成・発酵させ、堆肥として使用されます。



エネルギー



堆肥

セメント原料

セメント燃料

生産量 18,810t/14,390t

廃プラスチックや可燃物の中で品質基準を満たしたものは、破砕・圧縮等の処理が行われ、セメント等を製造する際の原料・燃料として利用されます。



セメント

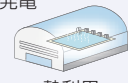
廃棄物発電・ サーマルリサイクル燃料

生産量 51,170t

混合廃棄物から機械で選別された可燃物(紙・プラスチック等)は、圧縮処理を行い、熱量として利用されています。



発電



熱利用

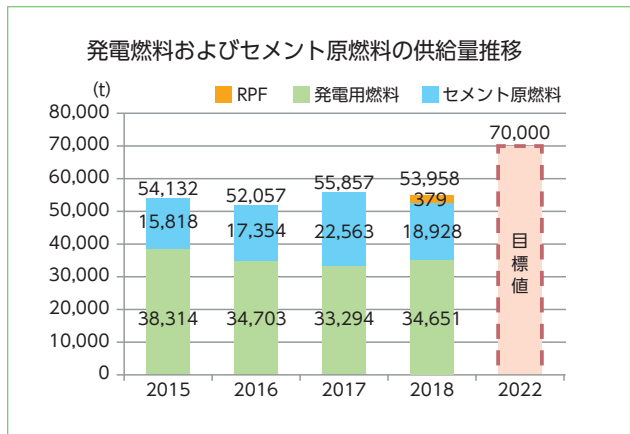
エコ・ファーストの取り組み

タケエイグループは、2008年に環境省よりエコ・ファースト企業として認定され、業界における環境先進企業としての取り組みを推進しています。環境大臣と約束した「エコ・ファーストの約束」について、進捗状況をご報告します。



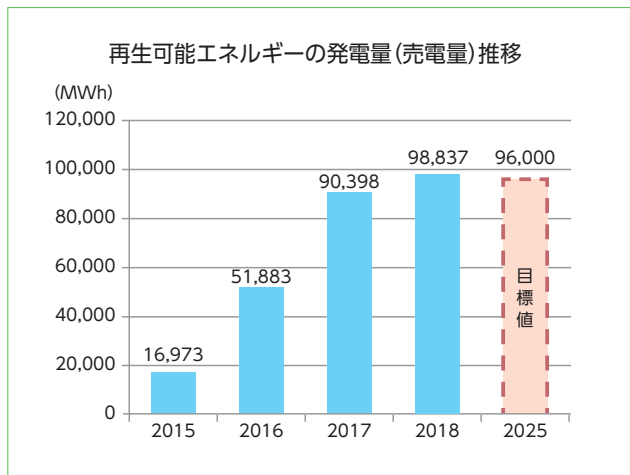
1 資源循環型社会の実現に貢献します。

タケエイグループにおけるリサイクル量 **621,312 t**



2 低炭素社会の実現に貢献します。

(株)タケエイにおける低公害車・低燃費車の保有台数
 低公害車 **246台**
 低燃費車 **156台**



3 地域や社会に根ざした環境活動を推進します。

現在稼働中のバイオマス発電事業 **3か所**

タケエイグループにおける環境活動の実施状況 **P.29~30** をご参照ください。

タケエイグループにおける施設見学の実施件数 **1,130件** (延べ4,716名)

エコ・ファースト推進協議会の副議長に就任

2009年12月、「エコ・ファーストの約束」の確実な実践と、先進性・独自性に富む環境保全活動のさらなる充実強化を、エコ・ファースト認定企業が連携して強力に推進していくことを目的に、エコ・ファースト認定企業が集まり「エコ・ファースト推進協議会」を設立しました。

当社グループは、協議会設立当初から加盟しており、2018年4月からは幹事企業の1社として、当社代表が副議長を務めています。

2018年度は、幹事企業として「第3回エコ・ファーストシンポジウム」の企画・運営を担当しました。SDGsをテーマとしたシンポジウムを実施し、164名の方々にご参加いただきました。引き



続き、環境省やほかのエコ・ファースト認定企業と連携し、協議会活動に取り組んでいきます。

「第3回エコ・ファーストシンポジウム」の様子

環境負荷低減活動

タケエイグループは持続可能な循環型社会の構築を目指し、省エネルギーやCO₂削減に向けた取り組みを行うことで、事業活動における環境負荷の低減を推進しています。

収集運搬における取り組み

廃棄物の収集運搬に伴う環境負荷低減活動として、エコドライブの徹底や、新規車両導入時の各種環境配慮型車両(低燃費車、低公害車)の選択など、CO₂排出量を削減するための取り組みを日々実施しています。

2018年11月に、CO₂削減や地球温暖化対策に貢献する優れた取り組みとして(株)タケエイ 物流管理部の「デジタルタコグラフ活用によるエコドライブ実施の取り組み」が、川崎市の「スマートライフスタイル大賞 委員長特別賞」を受賞しました。

また、イコールゼロ(株)ではハイブリッドパッカー車を導入しました。燃費が良く環境にもやさしいハイブリッドパッカー車は、長野県では初の導入となり、長野市役所にて出発式が行われました。



スマートライフスタイル大賞表彰式にて福田紀彦川崎市長(写真左)・足立芳寛CC川崎エコ会議会長(写真右)と



ハイブリッドパッカー車出発式の様子

事業所における取り組み

タケエイグループの各事業所では、高効率照明機器やインバータ式コンプレッサーなどの省エネ機器の導入、電力デマンドの管理による適正なエネルギー使用の平準化、低燃費型重機への入れ替えなどの省エネルギー対策に取り組んでいます。

2018年度には、(株)タケエイ 川崎リサイクルセンターや(株)ギプロにおいて、照明機器の一部をLED照明へ入れ替えました。

2018年10月には(株)タケエイ 四街道リサイクルセンターに

て、動力をエンジンからバッテリーに変えた電動式の重機を1台導入しています。燃料の軽油を使用せず、電気を使用するため排気ガスとCO₂排出量の低減につながっています。

オフィスにおける取り組み

タケエイグループでは、オフィスにおいても環境負荷低減活動を推進しています。オフィスの省エネルギーを推進するため、社内および子会社にてWEB会議システムを活用し、遠方からの社員の移動にかかる時間やエネルギーなどを低減する取り組みを行っています。また、クールビズの推進、空調設備の温度設定に関する啓発活動、照明機器のこまめな消灯などの取り組みを通して、電力使用量の低減を図っています。

また(株)タケエイ 東京リサイクルセンターにおいては、2018年5月に事務所の空調設備の入れ替えを行いました。従来よりも省エネ型の空調設備に入れ替えたことで、電力使用量の低減ならびにCO₂削減につながっています。今後も、業務における環境負荷改善活動を推進し、より環境負荷が低く、業務効率が高いオフィスを目指します。

「環境省 優秀賞」を受賞

2018年6月、イコールゼロ(株)が「環境賞 優秀賞」を受賞しました。「環境賞」(国立環境研究所・日刊工業新聞社主催、環境省後援)は、1974年に創設され、環境保全や環境の質の向上に貢献すべく、時代の要請に応える優れた取り組みを表彰する賞です。同社は、ガスセンサー制御硫化物法による金属廃液・汚泥処理技術を活用し、資源有効活用およびリサイクルに貢献したことが評価され、今回の受賞となりました。



環境賞贈賞式の様子

お客さまのために

タケエイグループでは、廃棄物の適正処理・リサイクルはもとより、グループ各社がそれぞれの強みを活かしたサービスをお届けすることで、多様化するニーズに対応しています。

品質管理における取り組み

(株)タケエイでは、品質マネジメントシステム(ISO9001)の認証を取得しています。認証範囲である廃棄物の収集運搬・積替保管・中間処理・最終処分およびその管理業務において、PDCAサイクルによる取り組みを行うことで品質向上を目指しています。

当社のほかにも、環境保全(株)および富士車輛(株)においても同認証を取得しています。



ISO9001認証

建設現場における取り組み

(株)タケエイでは、お客さまのご要望に応じて、建設現場における建設廃棄物の分別作業をサポートしています。分別作業の支援を行う専門チームが現場を定期的に巡回し、廃棄物の分別・保管状況を確認し、お客さまのニーズに合わせた改善方法をご提案しています。

また、現場監督や作業員の方々へ向けた分別講習会も行っています。この講習会では、保管されている混合廃棄物の中からまだ分別できるものを取り分けていくデモンストレーションを行い、廃棄物の分別知識をより高めていただけるよう工夫しています。

現場での分別作業を支援することで、お客さまの環境負荷低減に貢献するとともに、当社グループのリサイクル工場における中間処理・リサイクルの効率化にもつながっています。



掲示物による分別方法のご案内

優良産業廃棄物処理業者に認定

(株)ギプロは、2018年8月に埼玉県の「優良産廃処理業者」として認定されました。これにより、タケエイグループの優良産廃処理業者(処分業)は、すでに認定を受けている(株)タケエイ、(株)北陸環境サービス、(株)池田商店、イコールゼロ(株)、(株)信州タケエイを含め、6社となりました。

タケエイグループは、お客さまに安心して当社グループの廃棄物処理サービスをご利用いただけるよう、引き続き法令遵守を徹底し、産業廃棄物の適正処理を推進していきます。

産業廃棄物管理システムの導入

(株)北陸環境サービスは、2018年5月に産業廃棄物処理業にかかわる事務作業に特化したシステム「産廃ライフ」を導入しました。

本システムの導入により、各種データの一元管理および共有化が可能になったことで、お客さまからのお問合せについてスムーズかつ柔軟に対応できるようになりました。

また、集計作業の簡略化をはじめとした事務処理の効率化により、さまざまな角度からのデータ収集・分析が可能となり、今まで把握できなかった傾向も可視化できるようになりました。

今後も、お客さまにより良いサービスを提供し続けていけるよう取り組みを進めていきます。

環境展への出展

環境装置や特殊車両の開発・製造・販売を行う富士車輛(株)は、前年に引き続き2019年3月に東京ビッグサイトで開催された「2019NEW環境展」に出展しました。

同社が制作するチップングロータリー車や、ドイツJOST社製の風力選別機を展示しました。また、同社が総代理店契約を結ぶドイツ・STADLER社製の廃棄物自動選別機「パリスティックセパレーター」のデモンストレーションも実施し、多くのお客さまに自動選別の様子をご覧いただきました。

引き続き、資源循環型社会の形成に向けた新たな付加価値のある製品の提供に努めていきます。

安全衛生のために

タケイグループでは、「安全はすべてにおいて優先する」という理念のもとに安全衛生基本方針を定め、さまざまな安全衛生に関する取り組みを行うことで、社員が安心して働くことができる職場づくりを目指しています。

安全衛生基本方針

タケイグループでは安全と衛生の確保を事業活動の基本ととらえ、すべての社員が健康で安心して働ける職場づくりを目指して「タケイグループ安全衛生基本方針」を定めています。

タケイグループ安全衛生基本方針

【理念】

「安全はすべてにおいて優先する」

作業や業務においては、リスクの削減を最優先して安全の確保を行う。

【基本方針】

無事故無災害を目的とし、リスク削減について以下を基本方針とする。

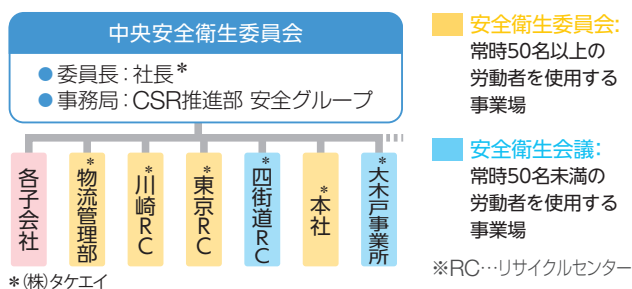
1. 法令や規程等を守ることによって、安全で衛生的な職場環境を形成する。
2. 技能の向上とその継承を図ることによって、安全作業と技術を身に付ける。
3. あらかじめ作業の有害・危険性を捉え、事前に安全衛生対策を講じる。

【行動指針】

1. 法令に従った管理を実施する。
2. 基本方針に従い期間的な目標を掲げ、その目標を達成するための計画と効果的な安全衛生活動を実施する。
3. 作業・業務に従事する一人ひとりが安全衛生を意識し行動する。

安全衛生推進体制

安全衛生委員会組織図



タケイグループでは、職場の安全衛生を確保するために中央安全衛生委員会を設置し、安全衛生推進体制を整備しています。

同委員会は当社グループ全体の安全衛生に関する事項を協議する場として毎月開催し、社員の労働災害の防止、健康維持・増進や快適な職場づくりを推進するとともに実務を行う担当者間での情報共有の場としても活用されています。また、中央安全衛生委員会の審議内容は、グループウェアにて周知しています。

安全活動

タケイグループでは労働災害の未然防止のため、社員に対して安全にかかわるさまざまな教育訓練を実施しています。また、安全活動として、ヒヤリハット提案やリスクアセスメントの取り組みを行っているほか、外部の労働安全コンサルタントによる安全指導や産業医の巡視も定期的に行っており、無事故無災害に向けて積極的に取り組んでいます。



労働安全コンサルタントによる現場巡視の様子

安全衛生スローガン

タケイグループでは毎年度、社員やその家族から安全衛生に関するスローガンを募集しています。2018年度においては安全衛生部門、交通安全部門、合わせて1,217件の応募がありました。最優秀作品、優秀作品については各安全大会で表彰が行われるとともに、二部門の最優秀作品については看板を作成し、各事業場、グループ各社に掲示をすることで安全意識の啓発に努めています。



安全衛生スローガン看板

社員のために

タケエイグループでは、休暇制度の利用を推進し、働きやすい職場環境づくりに努めることで、社員一人ひとりがその能力を十分発揮し、生き生きと働くことができる職場を目指しています。

ワークライフバランスの推進

(株)タケエイでは、半日単位での年次有給休暇の付与のほか、育児休業や介護休業、短時間勤務等の制度を導入しており、状況に応じて柔軟に利用できるような環境を整えています。また、毎週水曜日にはノー残業デーを設け、定時での退社を推奨しているほか、パソコンの長時間使用抑止システムの導入により長時間残業の抑制を図っています。

		2016年度	2017年度	2018年度
有給休暇取得率		39%	39%	44%
産前産後休暇取得人数	男	—	—	—
	女	8人	4人	4人
育児休業取得人数	男	0人	0人	0人
	女	8人	4人	4人

※データは(株)タケエイ在籍者が対象
※産前産後休暇の取得は原則女性のみ

定年退職者再雇用制度

(株)タケエイでは、定年退職者に対し、長年培ってきた知識や経験を引き続き活かしていただけるよう、再雇用制度を設けています。

		2016年度	2017年度	2018年度
再雇用人数	男	8人	10人	8人
	女	0人	1人	0人

※データは(株)タケエイ在籍者が対象

各種表彰制度

(株)タケエイでは、長年勤めてきた社員を慰労するとともに、今後も新たな活力をもって業務に臨んでいただけるよう、永年勤続表彰制度を設けています。勤続10年ごとに賞状等の授与やリフレッシュ休暇の付与を行っています。2018年度は30年表彰が5人、20年表彰が16人、10年表彰が25人となりました。

またタケエイグループにおいては、連結収益向上に顕著な貢献をした個人・部門・子会社等を対象とした表彰制度も設けています。



表彰式の様子

資格取得支援制度

(株)タケエイでは資格取得支援制度を設けており、対象となる資格の合格者に対し受験費用の補助や報奨金の支給を行うことで、社員の自己啓発を推進しています。環境社会検定(eco検定)をはじめ、業務を行う上で有用な約40種類の資格を対象としており、2018年度はこの制度を利用して延べ43名の社員が資格を取得しました。

種別	資格名称	2018年度取得者数
国家資格	運行管理者、衛生管理者、社会保険労務士、土木施工管理技士など	16名
公的資格	ビジネスマネージャー検定、ビジネス実務法務検定、簿記検定など	15名
民間資格	環境社会検定試験(eco検定)、ビジネス会計検定試験など	12名

※データは(株)タケエイ在籍者が対象

社員に向けた教育・研修

(株)タケエイでは、社員の能力・知識向上のため、さまざまな教育・研修を行っています。新入社員研修や管理職研修といった階層別研修をはじめ、当社の事業と関連が深い廃棄物処理法にかかわる研修等の専門教育も行っています。また、部門ごとに行う勉強会や、実技講習会への参加など、実務に直結した教育も随時実施しています。



安全帯特別講習の様子

新入社員に対しては、4月から6月にかけて新入社員研修を実施しています。当社グループの事業についての座学やグループ各社のリサイクル工場見学などの集合研修を行った後、営業業務や配車業務、事務業務などについて実務を通じて学びます。また、新入社員についてはエルダー制度を導入しており、1年を通じて年齢の近い若手社員が新入社員の実務指導や職場生活でのフォローを行います。これにより、若手社員のコミュニケーションスキルや実務指導力の向上にもつながっています。



新入社員研修におけるグループワークの様子



新入社員研修における工場見学の様子

ハラスメントの防止

(株)タケエイでは、就業規則をはじめとした各種規程でハラスメントの防止に向けた規程を定めるとともに、管理職に対する教育・研修を実施するなど、ハラスメントに関連する法令遵守の徹底に努めています。

非管理職に対しては、コンプライアンス・ヘルプライン通報窓口やセクハラ相談窓口といった各種窓口を設置し、不正行為等の早期発見に努めています。同時に、事実調査にあたっては通報者が特定されることのないよう細心の注意を払い、通報による不利益を被ることがないようにしています。

社員の健康にかかわる取り組み

(株)タケエイでは、社員が心身ともに健康な状態で働けるよう、労働安全衛生法に基づき定期健康診断を実施しています。また、希望者に対しては定期健康診断とあわせてそのほかの健診項目を受診できるよう、オプション健診の拡充も図っています。

メンタルヘルスケアの一環としては、ストレスチェックを実施しており、希望者に対しては産業医との面談の機会を設け、個人のメンタルケアを行っています。ストレスチェックの結果はより良い職場環境づくりへも役立てています。

また、同社では、社員の健康意識を高める活動の一環として、全国労働衛生週間の期間中である2018年10月2日から5日にかけて、本社会議室にボディチェッカーを設置しました。設置期間中は多くの社員がボディチェッカーを利用し、自己の血管年齢やストレス度といった健康状態を把握することで、自らの健康管理活動に役立てました。

(株)ギプロおよびイコールゼロ(株)においては、社員に向けた健康維持の取り組みの一環として、2018年12月にインフルエンザの予防接種を行いました。

タケエイグループでは、引き続き、社員の健康にかかわる取り組みの推進を図ってまいります。

地域・社会とのかかわり

地域住民の皆さまとのコミュニケーションを大切に、当社グループの特色を活かした地域貢献活動を実施することで、より良い地域・社会づくりに寄与することを目指しています。

「東北再生可能エネルギー利活用大賞」最優秀賞を受賞

2019年2月、(株)花巻バイオマスエナジーが「東北再生可能エネルギー利活用大賞」の最優秀賞を受賞しました。同賞は、経済産業省東北経済産業局が、再生可能エネルギーを利活用した発電、熱利用または燃料製造に関し顕著な成果を挙げた団体等を表彰するものです。同社は、岩手県内の間伐材や害虫被害木を利用して木質バイオマス発電事業を行い、さらに地域の小中学校へ電力を供給する「地産地消」によって子どもたちへの環境教育を推進する取り組みが評価され、今回の受賞に至りました。

また2018年12月、同社は経済産業省より「地域未来牽引企業」として選定されました。地域経済牽引事業の担い手の候補となる地域の中核企業が選定されるもので、当社グループでは、2017年度に選定された(株)津軽バイオマスエナジーに続いて、2社目の選定となりました。



表彰式の様子

清掃活動に参加しました

タケエイグループでは、地域環境の美化に貢献するための取り組みの一環として、自治体等の主催する地域清掃への参加や、事業所や工場周辺の自主清掃活動を定期的に行っています。

(株)信州タケエイでは、2018年6月に塩尻市の主催する第18回エコ・ウォーク「グリーン塩尻」大作戦に参加しました。塩尻市内のごみ拾いや外来植物の除去をしながら地域の豊かな自然に触れることで、地域の環境美化への意識向上につながっています。

また同社では、工場のある諏訪地区における月に1度の一斉清掃や、諏訪湖花火大会および新作花火大会におけるごみの分別指導なども行っており、引き続き地域社会へ貢献できる

ようさまざまな取り組みを行っていきます。



エコ・ウォーク「グリーン塩尻」における清掃活動の様子

当社グループ各社において、2018年度に参加した主な清掃活動は以下のとおりです。

(株)タケエイ	
2018.4.12	港区クリーンキャンペーン(港区主催)
2018.5	グリーンアクションたまがわ(大田区主催)
2018.5.10	ゴミゼロ運動(四街道市主催)
2018.10	ビーチクリーンアップin城南島(城南島海浜公園ビーチクリーンアップ実行委員会主催)
2018.11	殿町夜光クリーン大作戦(川崎市主催)
(株)池田商店	
2018.12	保土ヶ谷バイパス清掃および小川川アメニティ上流の清掃
(株)タケエイメタル	
2019.3	町内清掃
東北交易(株)	
2018.4	立子山野城地区の道路等の清掃・整備活動
(株)グリーンアローズ関東	
2018.4~2019.3	近隣道路等の清掃(月1回および強風・台風通過後)
イコールゼロ(株)	
2018.6	春の大豆島グリーン作戦(大豆島地区住民自治協議会主催)
2018.10	秋の大豆島グリーン大作戦(大豆島地区住民自治協議会主催)
(株)北陸環境サービス	
2018.11	内川里山美化キャンペーン
2018.4~11	平栗いこいの森 定期清掃活動(月1回)
(株)信州タケエイ	
2018.4~2019.3	諏訪リサイクルセンター周辺の一斉清掃(月1回)
2018.4.10	杉菜地区春・秋の土草刈り・側溝の泥上げ協力
2018.6	エコ・ウォーク「グリーン塩尻」大作戦
2018.8.9	諏訪湖花火大会・新作花火大会ごみ分別指導、道路清掃協力
2019.3	下金子区用排水路・側溝川ざらい、文出第二町内会春の用水路清掃協力
(株)津軽バイオマスエナジー	
2018.4	市民一斉大清掃
2018.5.11, 2019.3	発電所周辺の清掃活動
(株)花巻バイオマスエナジー／花巻バイオチップ(株)	
2018.4	工業団地クリーン作戦(構内外一斉清掃)

植樹活動に参加しました

(株)2018年6月に、(公財)鎮守の森のプロジェクト主催による「鎮守の森のプロジェクト植樹&育樹祭2018 in岩沼市」が開催され、(株)タケエイ、環境保全(株)、(株)グリーンアローズ東北の社員有志とその家族が参加しました。今回の活動では、植樹だけでなく育樹活動(草抜き)も行い、今後緑の防潮堤へと育っていく苗木の生長に貢献することができました。



「鎮守の森のプロジェクト」における育樹活動の様子

旭区暴力団排除対策推進協議会へ加入

2018年8月、(株)池田商店は旭区暴力団排除対策推進協議会へ加入しました。

今後も安全・安心な地域社会の実現のため、防犯等の活動に取り組んでいきます。

環境副大臣が訪問されました

2019年8月、あきもと環境副大臣が(株)タケエイ川崎リサイクルセンターを視察されました。産業廃棄物の処理工程をご覧いただき、廃棄物処理の現状や課題について意見交換させていただきました。



(株)タケエイ川崎リサイクルセンターにてあきもと環境副大臣(写真中央)と

環境学習を通じた地域との交流

タケエイグループ各社では、地域・社会の将来を支える子どもや若者を対象とした工場見学や職場体験を行っています。

イコールゼロ(株)では、2018年7月に「夏休み親子体験教室2018」に参加しました。この体験教室は、長野市の小学4年生から6年生までの24名が市内の各企業を見学し、廃棄物の排出から処理までの各工程を学ぶものです。廃液等のリサイクルを行う当社では、簡易的な実験をとおして、廃液を中和しメッキを取り出す作業を体験していただきました。



夏休み親子体験教室2018における実験の様子

当社グループ各社において、2018年度に行った主な環境学習については以下のとおりです。

(株)タケエイ 川崎リサイクルセンター	
2018.8	インターンシップ(環境省)
(株)タケエイ 東京リサイクルセンター	
2018.8	親子見学会((公財)東京都環境公社主催)
2018.9	大学生向けスーパーエコタウン見学ツアー((公財)東京都環境公社主催)
2018.9	施設見学:特別支援学校
2018.11	親子見学会(山梨県甲斐市)
イコールゼロ(株)	
2018.7	夏休み親子体験教室2018
(株)津軽バイオマスエナジー	
2018.4	施設見学:弘前大学農学生命科学部/理工学部
2018.7	施設見学:尾上総合高校
2018.9	施設見学:弘前南高校
(株)花巻バイオマスエナジー/花巻バイオチップ(株)	
2018.8	施設見学:岩手大学、東京大学
2018.8	施設見学:花巻シニア大学
2018.10	施設見学:花巻市民講座 まなび学園

コーポレート・ガバナンス

タケエイグループでは、社会から信頼される企業であり続けるために、健全かつ透明な視点から経営体制を整備・運用するとともに、コーポレート・ガバナンスとコンプライアンスの強化に取り組んでいます。

基本的な考え方

タケエイグループで手掛ける事業は、株主、社員、取引先、さらには当社グループ事業所周辺の地域住民の方々など、当社を取り巻くステークホルダーとの信頼関係のもとに成立するものにとらえています。したがって当社グループでは、健全な経営の推進と社会的信頼に十分に答えるために、コーポレート・ガバナンスの着実な実施を重要な経営課題として位置づけ、経営環境の変化に迅速に対応する経営体制の構築に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス体制

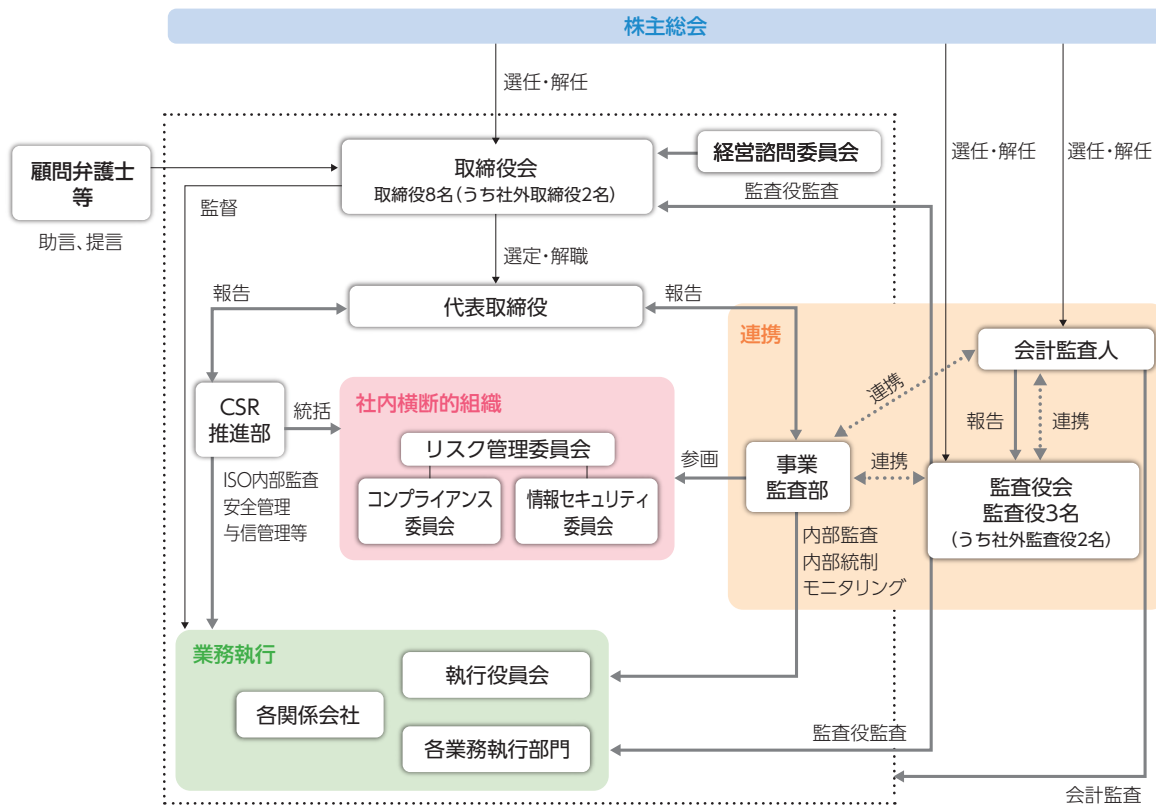
(株)タケエイは監査役会設置会社として株主総会のほかに、取締役会、監査役会、会計監査人を会社の機関として設置しています。

取締役会

(株)タケエイの取締役会は社外取締役2名を含む8名の取締役で構成されており定例の取締役会を毎月1回、臨時の取締役会を必要に応じて開催し、取締役会規程に基づき経営に関する重要事項を審議・決定するとともに、取締役の職務の執行を監督しています。また、社外監査役2名を含む3名の監査役も取締役会に出席し、取締役の職務の執行状況について、法令・定款に違反していないことのチェックを行うとともに、必要に応じて意見を述べています。常勤監査役は取締役会以外の重要な会議にも出席し、取締役などへの意見聴取や資料の閲覧、主要な事業所への往査等を通じて取締役の業務執行の適法性、妥当性を監査しています。

コーポレート・ガバナンス体制

2019年6月末現在



リスク管理体制

(株)タケエイでは事業運営上のさまざまなリスクについての統括部署として、CSR推進部を設置しています。CSR推進部ではISO内部監査、安全衛生管理、与信管理などを行い、タケエイグループの運営に関する全社的・統括的なリスクの顕在化の未然防止、リスク要因の特定やその改善の推進を図っています。

リスク管理委員会

タケエイグループでは経営を取り巻くリスクに対し、的確な管理が可能となるように、取締役会直属のリスク管理委員会を設置しています。リスク管理委員会は四半期に一度委員会を開催し、リスク管理に関する取り組みの方針・方向性の検討、協議・承認を行っています。これにより事業の継続・安定的発展を確保していきます。

情報セキュリティ委員会

IT技術の進化により高度にネットワーク化された現代において、情報の安全は経営上の重要な課題です。タケエイグループでは業務を行う上で接するお客さまや取引先、社員などの個人情報情報の漏洩や情報資産の破損などを防止するため、情報セキュリティ基本方針に基づき、リスク管理委員会の下部組織として、情報セキュリティ委員会を設置しています。これからも情報セキュリティ対策の適切な実施と継続的改善を推進する体制を整え、情報セキュリティに関する事故や問題の発生状況について常に調査し、企業活動の発展を目指します。

コンプライアンス委員会

(株)タケエイでは社内横断的な視点からコンプライアンスを推進するため、リスク管理委員会の下部組織としてコンプライアンス委員会を設置し、法令違反行為発生の有無を常に調査し、その発生を確認した場合には速やかにリスク管理委員会に報告するものとしています。また、従業員に対して法令遵守の必要性について継続的に周知を図るなど、グループ各社を含めた法令遵守の徹底に努めています。

内部通報制度

法令違反行為などコンプライアンス違反の早期発見と是正、予防を図るため、社員がコンプライアンスに関する事項を連絡相談することのできる窓口「コンプライアンス・ヘルプライン(内部通報制度)」を設置し、電話やメールなどによる相談を受け付けています。

内部監査部署

タケエイグループでは、2018年8月に内部監査部署としての監査部を事業監査部と改め、人員および体制の強化を行いました。具体的には専任6名を配属し、監査計画に基づき定期的に各部署、グループ各社に対し監査を実施し、内部統制システムが有効に機能していることを確認しています。

また、タケエイグループ各社に対して、管理職を中心に労働基準法や情報セキュリティなどを題材とした主管者研修会を実施しています。



主管者研修会の様子

事業ハイライト

福島県葛尾村における震災復興支援

(株)タケエイでは、2018年9月から2019年3月にかけて、福島県内における可燃性除染廃棄物等の収集運搬業務を行いました。福島県田村市・三春町・葛尾村の仮置き場に保管されている可燃性除染廃棄物を収集し、環境省が設置した葛尾村焼却施設まで運搬しました。

収集運搬業務に先立ち、より安全かつ効率的に作業を行うため、すべての仮置き場において測量や廃棄物の保管状況の確認、空間線量測定等の事前調査を実施し、それらの調査結果に基づき運搬経路等の作業工程を綿密に策定しました。また、一部の作業地域が空間線量の高い地域であったため、放射線管理も徹底的に行うなど、作業員の安全管理も徹底しました。

冬季期間中の作業により降雪や強風等の悪天候の影響が notwithstanding、組合を中心とした地元の方々より多大なご協力をいただき、計画を大きく上回る実績で工期を終えることができました。本事業がスムーズかつ安全に行えたのも、事務所の設置手配、地元での人材確保、地権者調整等、多岐にわたってご尽力いただいた地元組合、役所をはじめとした地域の皆さまのご協力の賜物です。タケエイグループでは、微力ながら今後もさまざまな形で地域の復興へ協力させていただきたいと考えています。



概要

- 工 事 名 平成30年度葛尾村広域処理における可燃性除染廃棄物等の収集運搬業務
- 業務期間 平成30年9月26日(水)～平成31年3月18日(月)
- 実績数量 23,772袋(計画20,000袋)

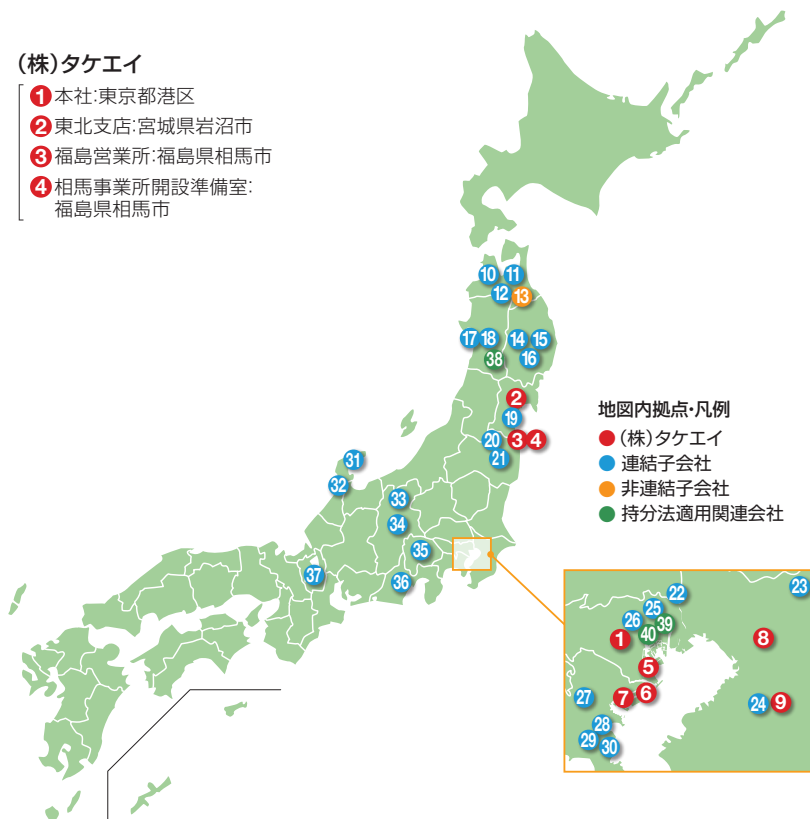
タケエイグループがかかわる災害廃棄物処理事業について

地域	期間	内容
千葉県 (旭市 他)	2011年4月～ 2012年5月	千葉県産業廃棄物協会の 会員企業として協力
岩手県 (釜石市)	2011年7月～ 2011年10月	環境省の災害廃棄物処理の モデル事業
東京都	2011年11月～ 2014年1月	岩手県・宮城県の広域処理の 一環として受け入れ
岩手県 (大槌町)	2012年1月～ 2014年3月	大槌地区における災害廃棄物の 中間処理業務
宮城県 (巨理町)	2012年4月～ 2013年12月	巨理名取ブロックにおける 災害廃棄物の中間処理業務
福島県 (楡葉町)	2013年3月～ 2013年8月	楡葉地区における災害廃棄物 (津波がれき等)の選別および保管業務
福島県 (田村市)	2017年3月～	県中・県南地域を中心とする 農林業系廃棄物の積み込み、 収集運搬業務
福島県 (葛尾村)	2018年9月～ 2019年3月	田村市、三春町、葛尾村の 可燃性除染廃棄物の積み込み、 収集運搬業務
福島県 (二本松市)	2019年4月～	二本松市等に保管された 農林業系廃棄物および 除染系廃棄物の収集運搬、 前処理業務
福島県 (双葉町)	2020年3月～	双葉町内の除染廃棄物の積み込み、 収集運搬業務および減容化処理物の 二次運搬業務

事業拠点(2019年8月末現在)

(株)タケエイ

- ① 本社:東京都港区
- ② 東北支店:宮城県岩沼市
- ③ 福島営業所:福島県相馬市
- ④ 相馬事業所開設準備室:
福島県相馬市



地図内拠点・凡例

- (株)タケエイ
- 連結子会社
- 非連結子会社
- 持分法適用関連会社

⑤ 東京リサイクルセンター
混合廃棄物のリサイクル工場
[東京都大田区]

⑥ 川崎リサイクルセンター
混合廃棄物のリサイクル工場
[神奈川県川崎市]

⑦ 塩浜リサイクルセンター
積替保管施設
[神奈川県川崎市]

⑧ 四街道リサイクルセンター
混合廃棄物のリサイクル工場
[千葉県四街道市]

⑨ 大木戸最終処分場
安定型最終処分場
[千葉県千葉市]

⑩ 環境保全(株)
計量証明事業、環境影響調査等
[本社:青森県平川市
支店:宮城県仙台市、東京都港区]

⑪ (株)津軽バイオマスエナジー
バイオマス発電事業
[青森県平川市]

⑫ (株)津軽あつぷるパワー
小売電気事業
[青森県平川市]

⑬ (株)津軽エネベジ
熱エネルギーを利活用した農業
[青森県平川市]

⑭ (株)花巻バイオマスエナジー
バイオマス発電事業
[岩手県花巻市]

⑮ 花巻バイオチップ(株)
バイオマス燃料製造事業
[岩手県花巻市]

⑯ (株)花巻銀河パワー
小売電気事業
[岩手県花巻市]

⑰ 大仙バイオマスエナジー
バイオマス発電事業
[秋田県大仙市]

⑱ (株)大仙こまちパワー
小売電気事業
[秋田県大仙市]

⑲ (株)グリーンアローズ東北
廃石膏ボードのリサイクル工場
[宮城県岩沼市]

⑳ 東北交易(株)
汚泥・燃えがら・ばいじん・銻さい等の
リサイクル工場
[福島県福島市]

㉑ (株)田村バイオマスエナジー
バイオマス発電事業
[福島県田村市]
〈設置準備中〉

㉒ (株)ギブロ
廃石膏ボードのリサイクル工場
[埼玉県八潮市]

(株)タケエイエナジー&パーク

㉓ 太陽光発電事業
[千葉県成田市]

㉔ パークゴルフ場運営
[千葉県千葉市]

㉕ (株)アースアプレイザル
環境調査、エンジニアリングレポート、
不動産鑑定業
[東京都千代田区]

**㉖ (株)T・Vエナジー
ホールディングス**
再生可能エネルギー事業への投融資・運営
[東京都港区]

㉗ (株)池田商店
廃コンクリート・銻さい等のリサイクル工場
[神奈川県横浜市]

㉘ (株)グリーンアローズ関東
廃石膏ボードのリサイクル工場
[神奈川県横須賀市]

㉙ (株)横須賀バイオマスエナジー
バイオマス発電事業
[神奈川県横須賀市]
〈設置準備中〉

㉚ (株)横須賀アーバンウッドパワー
小売電気事業
[神奈川県横須賀市]
〈設置準備中〉

㉛ (株)門前クリーンパーク
管理型最終処分場
[石川県輪島市]
〈設置準備中〉

㉜ (株)北陸環境サービス
管理型最終処分場
[石川県金沢市]
廃プラスチックのリサイクル工場
[石川県金沢市]

㉝ イコールゼロ(株)
廃酸・廃アルカリ等のリサイクル工場
[長野県長野市]

㉞ (株)信州タケエイ
混合廃棄物のリサイクル工場
[長野県諏訪市]
廃コンクリート等のリサイクル工場
[長野県安曇野市]

㉟ 解体工事
[長野県松本市]
安定型最終処分場
[長野県塩尻市]

㊱ (株)タケエイグリーンリサイクル
剪定枝のリサイクル工場、堆肥(有機)製造・販売
[山梨県富士吉田市、南都留郡]

㊲ (株)タケエイメタル
鉄・非鉄スクラップ等のリサイクル工場
[静岡県静岡市]

㊳ 富士車輛(株)
環境装置・環境プラント・
特殊車両の開発・製造・販売
[本社工場:滋賀県守山市
支店:東京都港区、大阪府大阪市]

㊴ クマケン工業(株)
有害汚染土壌処理剤・汚濁水処理剤の
開発・製造・販売等
[秋田県横手市]

㊵ (株)グリーンアローズホールディングス
廃石膏ボードリサイクル事業への投資
[東京都港区]

㊶ (株)V・Tエナジーマネジメント
バイオマス発電所の運転・維持管理
[東京都港区]

2019年9月吉日

各 位

株式会社タケエイ

タケエイグループCSR報告書2019を発行いたしました

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度弊社は「タケエイグループCSR報告書2019」を発行いたしましたので、ご案内申し上げます。

本報告書では、当社グループの事業が担う役割を紹介するとともに、2018年度の主な取り組みについて3つの観点(環境・社会・ガバナンス)から報告しております。

なお、裏面にアンケートをご用意いたしましたので、ご一読の後、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いに存じます。今後の活動や本報告書をより充実させるための参考にさせていただきます。

今後とも、さらなるご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

《お問い合わせ先》

株式会社 タケエイ

CSR推進部 ISO推進グループ

〒105-0011 東京都港区芝公園2丁目4番1号 A-10階

TEL : 03-6361-6836 FAX : 03-6361-6839

HP : <http://www.takeei.co.jp/>



「タケエイグループCSR報告書2019」アンケート

株式会社タケエイ

CSR推進部 ISO推進グループ 行

FAX.03-6361-6839

「タケエイグループCSR報告書2019」をお読みいただき、ありがとうございました。

今後の活動や本誌をより充実させるため、皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。

Q1 本報告書をどのような立場でお読みになりましたか？

- お客さま お取引先 タケエイグループ事業所の近隣の方 株主・投資家
行政機関 調査・研究機関 NGO/NPO 学生
企業・団体のCSR・環境担当者 協力会社 タケエイグループ社員
タケエイグループ社員の家族 その他()

Q2 本報告書を何でお知りになりましたか？

- タケエイグループ社員から入手 タケエイグループ事業所・工場への訪問時
タケエイホームページ 説明会、セミナー、展示会等 その他()

Q3 本報告書は読みやすかったですか？

- 読みやすい 読みにくい

その理由(複数回答可)

- レイアウトが見やすい レイアウトが見にくい 情報量が多い 情報量が少ない
文字が大きい 文字が小さい イラスト・写真が多い イラスト・写真が少ない
その他()

Q4 タケエイグループのCSR活動への取り組み・方針について、ご理解いただけましたか？

- 十分に理解し、期待している 理解できた あまり理解できない 期待もできず、理解もできない

Q5 下記A～Cの質問に該当する項目番号を選んでご記入ください(それぞれ3つまで)。

- A** 特に関心を持たれた記事は？ () **B** 説明が不十分と感じた記事は？ () **C** 理解できなかった記事は？ ()

- ①経営理念・編集指針・会社概要・事業概要 ②トップメッセージ ③タケエイグループの価値向上プロセス
 ④特集：株式会社タケエイグリーンリサイクル 木のリサイクル ⑤タケエイグループのCSRマネジメント
 ⑥環境とのかかわり ⑦事業環境に伴う環境負荷 ⑧タケエイグループの再資源化ソリューション
 ⑨エコ・ファーストの取り組み ⑩環境負荷低減活動 ⑪お客さまのために
 ⑫安全衛生のために ⑬社員のために ⑭地域・社会とのかかわり
 ⑮コーポレート・ガバナンス ⑯事業ハイライト ⑰事業拠点

Q6 本報告書やタケエイグループの活動に期待すること、ご意見・ご感想がありましたらお聞かせください。

()



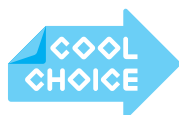
株式会社タケエィ

〒105-0011 東京都港区芝公園 2丁目 4番 1号 A-10階

お問合せ先：CSR推進部 ISO推進グループ

TEL.03-6361-6836 FAX.03-6361-6839

<http://www.takeei.co.jp>



印刷における環境配慮



2019 3,700PC